

ロータス



発行日
平成25年12月15日

社会福祉法人みろく会
高齢者部門
光葉園
発行責任者
澤口 公孝

編集
東野めぐみ
小野寺恵
鹿倉まゆみ

一年2回発行

「旧友とみかん」

理事長 澤口 公孝

デイサービスに30年来のお付き合いの男性がある日座っておりました。保育園時代の保護者であり、園のガラス窓を前園長時代から管理してくださっていた「お父さん」です。息子さんがお仕事を後継し、悠々とした時間を寛（くつろ）がれるためにお越しになったようです。もうそんな年齢になったのかと戸惑うほどでしたが、自分の年齢を考えるとえれば至極当然ではありません。でも驚きました。

去る10月末に全老協協の全国大会和歌山大会が和歌山市で開催され、副理事長と参加しました。初日の懇親会場の他県の施設長さんや理事長さん方と面識になるのも楽し

みの一つです。その席上大変熱心な理事長さんと知り合えました。トランスファー（移乗）に機械レスで取り組んでいると豪語されるほどの方です。「是非来なさい。」とのお誘いに、まず多少の準備をしませんと見学が無駄になります。その取り組みと職員の方々の意識と態度、研修の持ち方等々、予備知識を得ながら素直に受け入れる余地を持つて向かうつもりです。とにかくエネルギーが豊富な代表も務める理事長さんでした。この和歌山にはもう一つの目的がありました。大学の同級生夫妻が南紀田辺市に住んでおり、夫君には26年ぶりに、細君には40年ぶり卒業以来の再会を果たそうと思つて出かけました。途中御坊市の辺りからみかん畑が連なり快晴の下オレンジの実が緑の木々にたわわに輝いているのは圧巻でした。夫妻も同じ英文学科で教師を目指していまし

た。しかし二人は小学校教師を目指しました。私とは若干道は違いましたが、小学校教育に情熱を持つ二人が結ばれました。1年生と4年生の時に夫君の実家へ1週間も滞在しました。夫君が実家の仕事を手伝っている間、お父さんが私をスクーターに乗せてドライブと「あゆ捕り」に誘つてくださったほど歓待していただき良き思い出の一つとなつていきます。この級友に無理を言つて、熊野古道をとおる熊野三山へのルートを案内してもらいました。古道に沿つて流れる熊野川は、台風27号の影響で各所川が氾濫し見るも無残な光景でした。熊野川はそれは広い川幅の渓谷を縫つて流れる大きな川です。復旧工事の土木車が入つてはいましたが、何億円分の木材が流され集落を襲つた生々しい景色でした。啞然として言葉を失つてしまうほどの凄まじさでした。一方我々は旧知の仲

ですから、多少の外見の違いは有れ、大人の会話でしたが気さくに花が咲きました。熊野三山では急こう配の階段が必置でしたから、普段の不健康な生活を送る身には甚だ厳しいもので、これも修行とばかりに昇り降りを繰り返しました。学生時代に参詣した時は、多少は苦しさもあつたでしょうが今回の比ではなかつたと思います。熊野の街並みで驚いたのは、果物屋さん立ち並び店先全部がみかん一色でした。特に細君が買つてくれたみかんは房の皮が薄いのだそうで甘く食べやすくさらにかすが出ないのです。年々薄皮の房のみかんが多く出回つてきているそうです。小ぶりののに甘く味わい深い和歌山のみかんが大好きです。「リンゴの国青森から来ました澤口です。」「みかんの国和歌山から来ました濱口です。」大学1年生の授業英文学史の自己紹介の言葉でした。未だに忘れ得ない思い出です。